

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4390100099
法人名	社会福祉法人 熊本厚生事業福祉会
事業所名	グループホーム ほたる家
訪問調査日	平成 20 年 9 月 30 日
評価確定日	平成 20 年 11 月 19 日
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成20年10月15日

【評価実施概要】

事業所番号	4390100099
法人名	社会福祉法人 熊本厚生事業福祉会
事業所名	グループホーム ほたる家
所在地 (電話番号)	熊本市河内町野出1936-1 (電話) 096-277-2289

評価機関名	特定非営利活動法人 ワークショップ「いふ」
所在地	熊本市水前寺6-41-5 千代田レジデンス106
訪問調査日	平成20年 9月30日

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年 7月 20日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤	人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50,000 円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		780 円

(4) 利用者の概要(11 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.8 歳	最低	77 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三和クリニック、聖ヶ塔病院、翼ハロー歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ミカン畑が広がる小高い山に囲まれ、四季折々の自然の移ろいを目にしなが、のんびりとした生活が展開されている。同法人の特別養護老人施設が隣接しており、設備や乗用車等の貸し出し、看護師との連携など、全面的な協力が得られている。特養施設のレクリエーション活動に、職員が付き添い、ホームの入居者も参加し活動の幅を広げる支援が行われている。入居者の心身の状態を詳細に記述したお便りを発行し、写真や入居者直筆の手紙を同封し毎月郵送しており、家族の訪問時にはコミュニケーションを深め、密に電話連絡等を行うことで、家族から厚い信頼が得られている。継続した関係作りや訪問を促す工夫が、家族の訪問を多く誘い、県外に住む家族も月に数回の訪問がある。人事考課制度を取り入れ、3ヶ月に1回個人面接を実施、職員の意見・要望を聴き、また、相談を受け、業務に積極的に取り入れており、職員は自分の得意分野を生かした活躍の場を得て、生き生きと働くことができている。モチベーションチェックも実施され、個々の意欲の維持・向上に向けた対応が行われている。職員間の関係がよく、働きやすい職場であることがうかがえた。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 運営推進会議のメンバーに、女性の感覚や視点が必要ではないかという前年の提案を受け、女性の参加を働きかけている。また、職員の休憩時間の確保では、休憩を取りやすいように互いに声かけし休憩を取るようし、モチベーションのアップに繋がっている。サービス向上を目指し、課題の改善に速やかに取り組んでいることが評価できる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員それぞれが自己評価の全項目を、独自に工夫した3段階方式で取り組み、振り返りの機会を持ち、積極的に取り組まれている。評価結果は職員会議で話しあい、できていること、更に努力を要することへの気づきを出し合い、ケアへの対応を新たにしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) グループホームの活動状況や役割・認知症について説明し、家族・地域住民の理解を得るようにしている。地域の行事参加の受け入れが円滑になり、県生活推進委員会がおやつや食事作りを訪れたり、中学生のナイスライ、高校の職場体験学習の受け入れなど、地域に馴染むきっかけとなっている。また、ドライブ先の名所のアドバイスなど、身近に活用できる提案もあり、防災訓練や無断で出かける入居者の対応など、消防署の協力などを得られるようになっていた。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 年に1回、満足度調査を実施。また、年2回家族会を開き、入居者・家族の要望も聞き取っている。意見・要望は職員で検討し、改善に取り組んでおり、運営推進会議で報告が行われる。県外に住む家族も月に数回来訪するなど、訪れる家族は多く、その際にも、意見や要望を細やかに聞き取るよう心がけている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域に住む職員が、自治会等に広報誌を持参し、ホームの様子を紹介。住民との橋渡し役を積極的に行っており、グループホームの理解が広がって、協力が得られ、地域民家の一軒としての存在がアピールされている。また、農作物の差し入れや地域の行事への参加など、地域との交流が活発になっており、法人全体で開かれた施設を目指している。母体施設主催の夏祭り等の行事には住民参加が多く、ホームの入居者も共に交流が図られている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念には、個別性の尊重や、自立への援助・家庭的な雰囲気の中での生き生きとした暮らしを提供することが謳われている。家庭を基本とした雰囲気づくりや、生活リズムを心がけると共に、地域に根ざし、開かれた施設を目指すことが盛り込まれており、地域密着型サービスとしての役割を踏まえた内容となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有するため、週に1回理念を復唱する機会を持ち、毎月の職員ミーティングでも復唱し、職員の一人心の自覚の促しが図られている。職員は、理念に沿ったケアを心がけており、入居者への言葉かけや対応には温かみを感じられ、地域交流も積極的に行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣に民家が少ないという立地ながら、日々の散歩時に挨拶を交わし、夏祭りや敬老会、保育園・小・中学校との交流、餅つきなど施設を拠点にした活動などにも積極的に参加している。また時には入居者が住んでいた町の行事に出向き、懐かしい友人との再会を喜ばれている。地域に住む職員が橋渡し役となって、ミカン狩り体験や季節の野菜などの差し入れ等、地域との繋がりも構築されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティングで外部評価について職員に説明し、改善課題についても全員で取り組んでいる。前回の外部評価の結果を真摯に受け止め、改善に努めており、外部評価の意義を理解し、サービス向上に意欲を持っていることが伺える。外部評価結果は運営推進会議や家族会で報告し、理解と信頼が得られている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長や民生員、消防署職員、包括支援センター職員、家族代表等の参加があり、ホームの活動状況や入居者の状況などをパワーポイントを使用しての説明が行われている。会議を重ねる中でホームの機能、認知症についての理解が深まっており、藤見の名所を教えてもらうなど、要望やアドバイスを得る場ともなっている。	○	会議は同法人の隣接施設の会議室で行われているが、ホームの食堂や和室を利用し、会議参加者と入居者がざくばらんに触れ合える機会を作るのも一案ではないかと思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム連絡協議会や市主催の研修会等で市職員と情報交換や質問等を行っている。保険センターには介護保険等の手続きで度々訪れ、親しく話をしている。市職員はグループホームに深い関心を持っていることが伺え、ホームを訪問する意志が確認できているが、実現には至っていない。	○	市の担当窓口や保険センターに広報誌等を持参するなど、連携を更に深め、ホーム行事に招待するなど、交流のきっかけを作るのも良いと思われます。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月利用料等の明細書と併せて、暮らしぶりを詳しく伝える手紙や入居者直筆の手紙等を添えて郵送し、家族の安心と信頼が得られている。支払いはホームに足を運んでもらうようにしており、その際、口頭での近況報告をし、状況変化時は早めの報告を電話で行うなど、細やかなコミュニケーションが心がけられている。	○	職員からの手紙はパソコンで作成されて見易く解りやすいものだが、時には手書きやイラスト入りなど、各担当職員の個性を生かした工夫を検討されると、一層温かみが増すと思われる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	無記名の満足度調査を実施し、家族の意見・要望をくみ取る努力が行われ、家族の訪問時には職員が積極的に声掛けし、信頼関係を築き、何でも言えるようにしている。聴き取った要望は職員で話し合い、改善に取り組み、運営推進会議で報告がなされている。	○	家族会への参加者が減少傾向にあるようなので、日程を早めに知らせ、他のイベントと抱き合わせるなど、工夫を考慮されると良いと考える。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なじみの関係を保つことの意義を重視し、法人内での異動は極力抑えている。この1年間に異動、退職はなく、新採用が1名であった。新職員については、家族には面会時や毎月の手紙で紹介し、入居者には会話の中で自己紹介を重ね、不安や混乱を回避する配慮が取られている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の習熟度に合わせて、研修を実施している。新人は、採用直後の2日間の集中研修後、半年間は日々の業務の中でスーパーバイズを実施。市主催の研修会やグループホーム連絡協議会で実施する勉強会などの外部研修に積極的に参加し、内部研修も行ない、資格奨励金制度を設けるなど、職員の資質向上を図っている。また、半年ごとに職員が自己評価し、自己目標を立てる仕組みがあり、資質向上の動機づけとしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の別のグループホームとの交流を活発に行ない、ホーム同士で職員の交換実務研修を実施。環境作りや経費の無駄を無くす工夫などの気づきが業務に活かされている。職員一人ひとりが自主的に考え、サービス向上に熱意を持っていることが感じ取れる。グループホーム連絡協議会が隔月実施している勉強会等では、具体的なサービス内容についての情報交換が行われており、良い学びの機会としている。	○	交換研修は法人内だけでなく、他のグループホーム間との実施は、また違った気づきがあり、視野が広がると思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、自宅や入院先等に出向いて面談し、入居待機中のショートステイを利用の際にはホームの職員が頻回に訪問し、生活状況の把握と共に、馴染みの関係を築くよう努めている。また、本人・家族揃って招待し、ホームの雰囲気を体感してもらっている。入居後は、他の入居者との円滑な関係作りのために、間に入って、早くホームの生活に馴染んでもらえるよう調整が図られている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔ながらの料理やおやつなど、入居者に習いながら一緒に作り、職員が上手に出来なくても入居者が笑いながらフォローしてくれるという、共に支え合う関係が築かれている。職員が料理をしていると、「手伝おうか」と自からの参加が見られ、教えることに喜びを感じ、意欲的な様子がみられた。活動性が低下している入居者には、体調や気分等タイミングを見計らいながら、おにぎり作りに声をかけるなど、入居者個々の持っている力に応じた働きかけがなされている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	散歩や入浴時の会話から本人の望みを聴き取り、ケアプランに反映させる努力がみられた。普段の会話にアンテナを張り、言動を大切にケース記録に残されている。また、思い出話の中から思いを汲み取ったり、選択肢を用意し選んでもらう等、意志の把握に努め、生活歴や家族の話等からも思いを推察している。毎月来訪する市の支援相談員の情報も取り入れている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン作成に当たっては、在宅時の生活をできるかぎり継続できるように考え、立案している。本人・家族・担当職員から情報収集し、アセスメントを行い、カンファレンスを実施している。また、必要時には母体施設の理学療法士や作業療法士にも参加してもらい、アドバイスを受ける等の努力がみられた。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に心して見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年毎に定期的見直しを実施。モニタリング、再アセスメントを行い、プランの継続や変更を検討している。アセスメントツールは、センター方式に変更することを検討しており、よりの確な情報収集やアセスメント方法に関心を持ち、取り組んでいることが伺える。	○	センター方式の取り入れに意欲を持っておられるので、成果に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体施設が隣接しており、法人全体の機能を活用できる体制ができています。特養のレクリエーションにホームの入居者が参加でき、日々の楽しみ事の選択肢が広がっている。理学療法士・作業療法士・看護師等と連携し、運動機能の改善や健康管理が行われている。また、施設の車両を借り、ドライブや通院移送介助、外出支援など、柔軟な支援が多機能性をさらに発揮させている。	○	ショートステイは現在行っていないが、今後受け入れを検討しており、実現を期待したい。地域の福祉ニーズに関する情報収集や入居待機者のショートステイ利用等を、積極的に働きかけ、更なる地域貢献に期待したい。
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の利用は本人・家族の希望に添っており、定期的かつ柔軟な連携が図られている。受診には付き添って、主治医に情報提供し、療養について相談するなど、親密な関係を築いている。定期の通院は原則として、家族が連れて行くが、急な病状変化には職員で対応し、受診や電話での相談を行っている。受診結果は家族に必ず報告し、信頼が得られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化の定義を定め、入居時に状態悪化の対応について説明をしている。これまで看取りの事例は無いが、状態が悪化した入居者には、その都度本人・家族の希望を聞き、主治医等と相談して対応してきている。家族の協力、ホームのケア内容と限界などについての具体的な指針までは策定されていない。	○	現在の入居者の状態にかかわらず、重度化した際の方針を話しあっておくことが望まれる。具体的な支援体制や、ホームでの受け入れの限界など、職員と話し合っていることが重要と思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーや個人情報保護に関しては、勉強会を実施し周知徹底が図られている。各種記録やチェック表等は、食堂で入居者の見守りを行いながら記録する場合も、席を立つ時は事務室に持って行くようにし、人目につかぬ配慮が見られた。声かけや対応は個々のペースに合わせてゆっくりと行なわれおり、入居者を大切にしていることが感じ取れた。	○	トイレへの声かけの際、「トイレ」「お便所」「おしっこ」と認知具合に配慮した声掛けがなされていたが、共用の空間での「おしっこ」の声かけは小声にするなど、羞恥心に配慮があると良いと思われる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭の生活の流れを基本に、一人ひとりの生活リズム・意向を把握し、個々のペースに合わせた支援が行われている。トランプやゲームを楽しんだり、読書、家庭菜園で野菜作りなど、思い思いに1日を過ごされている。心身の機能の維持向上のため、レクリエーションや散歩を呼びかけ、個々の好みで参加されている。閉じこもりがちの人には、表情を見てその日の気分を確認し、散歩に誘っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の興味や能力に応じて、料理の下ごしらえ、盛りつけ、後片づけなどが一緒に行なわれている。食事時は各テーブルに職員が同席して見守り、視界が狭く料理に気付かず残している人には促す声掛けが自然になされていた。誕生日にはその人の好物をメニューに入れ全員で祝い、夏祭りや誕生会には希望者にはビールのサービスもある。弁当を作り、近くの物産館で食べたり、外出の際は前もって弁当を予約しておくなど、負担の少ない方法で食事を楽しむ努力がみられた。	○	衛生・安全上の配慮から、食事に生ものは提供されていないが、寿司を食べたいとの要望に回転寿司など検討されており、食事を楽しむ機会が更に増える事が期待される。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望や体力にに応じて、毎日または1日置きの入浴支援をしている。入浴拒否の人には、気分を見ながら声かけのタイミングを計ったり、「子供さんから頼まれているんですよ」など声かけの方法を工夫している。「清潔にしてください」旨の手紙を家族に書いてもらうなど、無理強いしない効果的な方法を考え、入浴を促している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事参加の呼びかけや、多様な趣味活動の場を用意し、楽しみや生きがいを感じてもらい支援が行われている。食事の準備や後片づけを自分の役割と感じ、積極的に行う人も見られる。俳句は作品を廊下に掲示しており、励みになっている。ピアノを弾く入居者に関して、他の入居者への説明等前準備が十分でなく導入に失敗したという経験を生かし、一人ひとりの好きなこと、得意なことを見出し、活躍できる場面作りが行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や外出の希望には速やかに対応し、タイミングを逃さない支援を行っている。本妙寺、博物館、美術館など希望者数人ずつの外出支援が、頻回に実施されている。	○	外出行事には家族参加を呼びかけているが、これまでの参加は無いようである。参加しやすい工夫を考え、家族と共に外出を楽しむ機会作りが継続されることを期待する。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は全ての出入りを施錠せず、キッチンや食堂に常に職員がおり、見守ることで危険を回避している。黙って出かけようとする人には、職員が付き添う。通りに出るまでに距離があり、隣接施設の事務職員との連携ができており、敷地内で対応できている。近くの消防署にも連絡してもらえ体制ができています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を、1回は消防署の指導のもと、夜間想定での訓練など、年3回実施している。運営推進会議で地域の協力を呼びかけており、また、消防署が近くにあり迅速な支援が期待できる。母体施設の協力体制も整っている。	○	緊急時の対応についての外部研修に参加の希望があるので、実現が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取状況を把握し、健康状態に応じた援助が行なわれている。糖尿病の人の食事制限は、目標カロリーを設定しているが、配膳時に分量を加減し、あえて厳密にはせず、本人に大きな精神的負担とならないようにしている。腎不全の人では、口喝時には氷を含ませるなど工夫し、水分制限に対処している。母体の管理栄養士にアドバイスを受け、主治医と連携した栄養管理を行っている。また、本人の希望により居室でも水分摂取が出来るように、水筒を活用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井近くに設置された排煙窓から程良い光と風が入り、間接照明で心地よい空間になっている。床や壁は温もりの感じられる木材を使用し、高い天井には梁を通すなど、昔の住まいの雰囲気も漂わせている。こあがりの畳の間は扇型になっており、玄関ドアや廊下から台所を臨む窓は丸窓で、施設全体が優しい設えになっている。廊下や庭にベンチを設置しており、1人外を眺めながらのんびりしたり、あるいは数人でおしゃべりしたりできる場となっている。周囲は山林に囲まれ、四季の移り変わりを満喫でき、横を流れる川のせせらぎの音を聞きながら、穏やかに過ごせる環境にある。	○	BGMとテレビが同時に聞こえた時があったが、細やかな調整も少し必要と思われる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具・調度品を自宅から持ち込み、個々の好みに合わせた部屋作りとなっている。家族と一緒に写真や、職員が撮影した写真をコメントと共に飾るなど、本人・家族と協力して工夫されていることが伺えた。	○	やや殺風景の部屋も見受けられた。家族への働きかけを継続されると良いと思われる。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ほたる家
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県熊本市河内町野出1936-1
記入者名 (管理者)	竹林 鶴代
記入日	平成 20年 8月 22日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	1. 家庭的な雰囲気の中で、入居者一人ひとりの能力を活かした自立した支援を行います。 2. 地域に根ざした開かれた施設を目指します。 3. 入居者一人ひとりを大切に生き生きとした生活が送れるよう支援します。 以上の理念を作っている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有する為、職員皆で1週間に1回復唱し、徹底している。又月1回の職員ミーティングでも理念の復唱を行い、一人ひとりの自覚を促している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議で地域密着型としての施設の役割を訴え、家族や地域の方たちに理解を得よう取り組んでいる。年2回の家族会でも伝えている。	○ 交流会の場や、地域の集まりでも理念を伝えていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域在住の方が少なく、併設の特養ホームの行事や地域の祭に参加し、ふれあいの機会を作っている。また地域在住の職員が関係作りをしている。 地域の店などとの関係を作っている。	○ 一部の職員との関係作りはできているが、今後は多くの職員が関係作りをしていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方の働きかけで、県食生活推進委員の方や、地域の方が来てくださっている。 また、地域の行事(祭りやどんどや等)保育園・小学校・中学校などとの交流を定期的に行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域在住の職員が、地域の会合などで認知症ケアについて話をしている。 地域の中学生のナイストライや高校生の職場体験学習等の受け入れをしている。	○	認知症キャラバンメイトとしての講習等も検討していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティングの時に外部評価についての話し合いをしている。 同法人の委員会のラウンド等で指摘を受け改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を年6回実施している。そのときでた意見・要望を取り入れている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターと連携を図り、アドバイスをいただいて改善に取り組んでいる。グループホーム連絡協議会等に参加し市の担当者と話をすることもある。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人内の勉強会や外部研修に参加し、知識の習得に努めている。 必要に応じて活用していきたいと考えている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の身体拘束廃止委員による権利擁護や虐待の勉強会が実施されているので勉強会に参加し知識の習得に努めている。 また委員会のラウンドを受け防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書・重要事項説明書を元に説明を行い、質問を受け同意をいただいている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情は苦情解決マニュアルに沿った対応をしている。日常の中での利用者の声や家族の相談にも対応し、サービスに反映させている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月1回利用者の体調・心身状況などの近況を手紙や電話で報告している。金銭面でも毎月文書で報告している。面会時には、ご本人の状況を伝えている。又、状態変化時は電話でも報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に対して、アンケート調査を実施し、意見を聞いている。苦情や意見は運営推進員会で報告し、改善に向けて対策を立てている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	提案書制度や自己申告書で意見や提案を聞くシステムを作っている。良い提案は、実行している。3ヶ月に1回個人面接を行い不安や困っている事などを聞き対応している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	外出等で職員が必要なときは勤務時間や勤務変更等を行っている。事業所内の職員で対応できないときは併設施設から応援を要請している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が不安にならないように異動はできるだけ避けている。	○ 併設職員とのかかわりも持ち、顔なじみの関係を作っていききたい。異動がある場合でもすぐに対応できるように準備したい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人教育に関しては、カリキュラムを作成し業務の中で教育している。中堅・管理者に対しては年間の勉強会や外部研修を実施している。グループホーム内でも勉強会を実施し資質向上につなげている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人のグループホームと連携し情報交換やアドバイスももらっている。今年度は全員が実習に行き交換研修を実施した。グループホーム連絡協議会に所属し2ヶ月に1回の会合にも参加している。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	6ヶ月毎の面接で、職員の思いや悩みを個人的に聞き対応している。法人内のバレーボール大会や旅行などでもストレス改善に努めている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課制度を取り入れ実施している。また、モチベーションチェックを実施し個人個人の対応を行っている。資格取得については、取得の為に勉強会開催や資格奨励金制度等も	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前の面接や入所時に本人の要望を聞きサービスに取り入れている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	電話での相談や見学時に時間をとって話をよく聞くようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	経験のある職員が家族や本人の状況を聞き、家族の思いや本人の思いを聞き取り、必要に応じたサービスを提案している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に職員が必ず本人と面接している。事前に会うことで緊張感を取り払う。また、必ず本人・家族で見学に来ていただきホームの雰囲気を味わってもらう。入居後は無理をせず少しずつ他の利用者と交わっていただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理やおやつ作りでは利用者から教えていただいている。昔話が出ているような発見につながっている。農園活動では、いろいろな知恵をもらって作業している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話で連絡を取り、一緒に考えている。作業風景を写真に撮り良かった事も伝えて安心感を感じてもらおうようにしている。 受診時の付き添いやホームでの活動にも参加を呼びかけている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの家族との関係を考慮しながら対応している。本人は家族との面会を心待ちにされ、面会があれば大変よろこばれている。	○	誕生会や行事に参加の呼びかけをしているが少ないので、今後も工夫して生きたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の面会はあり、続けてきていただけるように声かけしている。敷地内の別事業所を利用中の兄弟や夫等にも会えるように調整している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者間でトラブルになることもあるため、職員が間に入り予防に努めている。新規の利用者には、利用者間で話が盛り上がるように声かけを多くし工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後も入院中であれば面会に行ったりし、必要に応じて継続的な関係を持っている。退去後の家族の相談等にも対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の声を聞きケアプランの中に反映させている。普段の会話の中から本音を聞いたり支援相談員の方の情報も取り入れている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族や以前担当されていた介護支援専門員等からできるだけ多くの情報を得るようにしている。記録に残し全職員で周知している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人の生活スタイルを尊重し毎日の観察を行い、ちょっとした変化を記録に残し現状把握に努めている。一人ひとりの希望に合わせた生活になるように努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当、本人、家族からの情報を収集しカンファレンスを実施し、ケアプランを作成している。必要に応じて同法人の理学療法士や作業療法士等の職種を入れてアイデアを出し合いケアプランへ反映している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なプランの見直しを実施している。モニタリングを実施し状態変化があった場合は新たなプランを作成している。	○	センター方式(一部)を取り入れたケアプランを作成していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や会話の内容などからの気づきを記録に残し、情報の共有に努めている。毎日の記録をもとにケアプランの作成や日々のケアに反映させている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に合わせて受診介助や外出支援等を実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの活用は実施できている。また、小中学校や保育園との交流もできている。運営推進会議では消防や警察の協力を仰いでいる。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	同法人のケアマネジャーや事業所と連携を図っている。通所事業所等の利用ではないが、行事時は一緒に参加している。(そうめん流しや交流会など)		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	敷地内に包括支援センターがあるので常に情報交換を行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人家族の希望に沿って決定している。医療機関とは定期的に連携を図り、受診の付き添い等も行い医師とも相談しやすい関係作りに努めている。必要に応じて専門医を紹介してもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現状ではかかりつけ医の受診だが、必要に応じて専門医(精神科等)を紹介してもらい対応している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員は2名配置している。法人内の看護職員との連携もできている。又、近隣の医療機関の看護職員とも相談できる関係にある。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は定期的に病院に出向き、病状確認している。病院関係者と情報交換を行いグループホームでも対応できるようであれば、早期退院に向けて調整している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に状態悪化時の対応についてできる方には話をしている。 終末期についての話し合いでは本人や家族の希望を聞き意見を尊重しながら今後の方針を決めている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	状態悪化時は、医師と相談しながら本人や家族の意向に沿えるよう話し合いをしている。これまでにターミナルのケースはなかった。	○	ターミナルに向けて準備をしていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	グループホームから施設入居された方がいるが、詳細に情報提供したり時々面会に行ったりし本人の不安を和らげるよう努力している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の生活の中でも、プライバシーに関しては注意を払っている。 個人情報保護に関しては、勉強会を実施し周知徹底している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ゆっくりはっきりしたわかりやすい言葉で声かけを行い本人の意志を確認している。自分からなかなか話さない方もいるので、表情や顔色を見ながら対応している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やレクレーション以外は自分の時間としてゆっくり過ごされている。散歩をしたい方には本人の時間に合わせて付き添っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望の美容室は、現在ないのでグループホーム内で協力理容店に来てもらって対応している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は、野菜の皮むきや味付け、味見、盛り付けなど担当してもらい楽しんでもらっている。片付けなども能力に合わせて依頼している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ビールが好きな方もいるので対応している。お茶の時間はコーヒーやジュース、お茶など好みをきいて対応している。おやつなどは買物に行った際に好みに合わせて購入している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	昼夜できるだけトイレを利用していただいている。排泄チェック表を利用しその方にあつた時間に声をかけている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりにあつた時間で入浴していただいている。入浴の嫌いな方もいるが、気分を見ながら対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの希望にあわせ、昼寝や夜間の対応をしている。ソファやたたみを利用してゆっくり休養してもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事(食事の準備や洗濯など)や趣味活動(カルチャー教室)を取り入れている。散歩や外出、行事等にも参加していただき、楽しい時間を提供している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	3名の方はお小遣いを所持されており管理されている。他の方は職員が管理している。行事や外出で自由に買物をされている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望に応じて外出や散歩、買物に出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出行事のときは家族にも声をかけるが、参加はない。本妙寺や加藤神社、動物園や熊本港などに出かけた。	○	今後も家族の参加を促していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望で電話をかけている。手紙のやり取りは今後実施していきたい。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時には、お茶やお菓子を出し接待している。面会の方に良い印象を与えるように努力している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員の管轄の下マニュアルに沿った対応をしている。又、勉強会を実施し、職員の指導も行っている。ミーティング等でも理解を深めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	グループホームの理念通り、自由な環境の中で生活していただきたいので日中は鍵をかけず対応している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中離設の可能性のある方や転倒の危険のある方には特に注意を払い巡視している。職員間で声を掛け合い確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人の要望に応じられるようにハサミ・包丁は場所を決めて保管している。いつでも取り出せるようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	リスクマネジメント委員会の勉強会等で知識習得している。事故発生やヒヤリ・はっとの段階でカンファレンスを行い発生防止に努めている。緊急時対応の勉強会や防災訓練も実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年2回消防署から緊急時の対応や応急処置の勉強会を実施している。又緊急時対応のための連絡網訓練を抜き打ちで実施している。	○	施設外の研修会にも参加していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は年3回実施している。連絡推進会議で地域の方々にも災害時の協力を呼びかけている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時に家族と本人のリスクについて話し合っている。対応について一緒に考えていただいている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の健康チェックで早期発見を心がけている。異変時は職員へ伝達し共有できるようにし、必要に応じて医療機関を受診している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服薬について勉強会を行い知識習得に努めている。内服チェック表を作り誤薬防止にも努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜や乳製品等を多めに取り入れ便秘予防に努めている。水分補給やリハビリ、散歩等の運動で自然排便を促している。内服で調整している方もいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に口腔ケアを行い清潔保持に努めている。体調不良につながらないように気をつけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	かかりつけ医の指示のもと、決められたカロリーの中でバランスのいい食事、飲み物の提供を行っている。利用者により法人内の管理栄養士にアドバイスをもらっているケースもある。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染防止委員会のマニュアルに沿って毎日のうがい、手洗いを実施している。インフルエンザ予防接種も入居者・職員共に実施している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	キッチン用品は毎日消毒し、食材の賞味期限もチェックし調理している。 食中毒の勉強会を行い職員の意識付けもできている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は入りやすいようにスロープを付け、駐車場からすぐに入れるよう工夫してある。 玄関には花や観葉植物等で親しみやすい雰囲気を作っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	童謡やBGM、テレビの音量の調整を行い居心地のいい空間作りに気をつけている。季節に合った装飾も行っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり自分の居心地のいい場所でくつろいでもらっている。本人の状況を観察しながら声かけを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたたんすや椅子などを持参している方もいる。写真や本人が愛用していた小物を飾られている。部屋に入ると自分の部屋であることを認識される。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	1日2回の換気、温湿度チェックを実施している。冷暖房も外気温と差をなくすように調整している。(夏26～27度冬22～24度程度)		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	屋内はバリアフリーで手すり等も設置されている。できる限り自立していただくよう本人に合った補助具を利用している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの能力に合った作業をしていただいている。洗濯たたみや裏庭の菜園など無理のないようにできることを見極めながら手伝っていただいている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	裏庭の畑などに自由に行き野菜や花を楽しめる。又、敷地内に農園や桜、庭、藤棚などあり四季を楽しめる。安全にも配慮している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自然に囲まれた環境を生かして、散歩や外出行事を多く取り入れている。

毎日、家事的な作業や農園活動を取り入れ、本人の生きがい作りや地域との交流、外出を行い楽しんでいただけるようにしている。

サークル活動として、俳句、生花、書道、押し花、デコパージュ等を定期的実施している。

実習生の受け入れも積極的に行っている。